

科目名	老年期障害作業治療学	担当教員	久保 勝幸 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	------------	------	---------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	3年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR32ABE	②、③、④					

科目概要	超高齢社会の現代は、高齢者の生活障害を予防・改善し、生活の質を高める作業療法介入が重要視されている。老年期の作業療法では、高齢者が自分らしい人生を送る主体であることを支援するという理念のもと、さまざまな介入が行われている。そこで本科目では、老年学で学習した加齢に伴う心身の変化を踏まえた上で、加齢や老年期の病理に起因する生活障害を理解し、主として維持期（生活期）における対象者への介入について講義を行い、制度を踏まえた実践や多職種との連携に対応できる知識を習得する。
学習目標	① 超高齢社会の現状と高齢者のライフスタイルについて理解する。 ② 老年期の生活障害について理解する。 ③ 維持期（生活期）における対象者への介入について理解する。 ④ 認知症に対する評価・介入過程を理解する。 ⑤ 老年期作業療法の対象者に対して、評価・介入過程を模擬的に実践できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	ガイダンス 老年期作業療法の理念と役割	老年期における作業療法士の役割と形態 老年期作業療法の理念と目的、歴史的変遷	老年期作業療法の考え方について理解する。 老年期作業療法における作業療法士の役割と変遷について理解する。	
2	高齢者の特徴	高齢者の生活課題 生理的老化と生活障害	高齢者の生活の特徴について理解する。 生理的な老化と生活障害について理解する。	
3	高齢社会（1）	高齢化の進展 高齢者のライフスタイル	高齢者のライフスタイルの特徴と作業バランスについて理解する。	
4	高齢社会（2）	高齢者関連の保健・福祉・医療制度の変遷 現在の高齢者関連の法制度	高齢者関連の法制度について理解する。	
5	老年期作業療法のプロセス（1）	評価のプロセス	老年期作業療法の評価のプロセスを理解する。	
6	老年期作業療法のプロセス（2）	評価の解釈、目標設定、介入のプロセス	老年期作業療法の評価の解釈、目標設定、介入のプロセスについて理解する。	
7	認知症（1）	認知症の疫学、画像的理解、臨床場面での症状	認知症に関わる上での基本的な事項を理解する。	
8	認知症（2）	認知症の治療	認知症における薬物療法と非薬物療法について理解する。	
9	作業療法理論に基づいた実践（1）	人間作業モデルの概要	人間作業モデルの概要について理解する。	
10	作業療法理論に基づいた実践（2）	人間作業モデルの評価・介入過程	人間作業モデルの評価について理解する。	
11	老年期作業療法の実践に必要な知識（1）	低栄養、喀痰吸引	低栄養、喀痰吸引について理解する。	
12	老年期作業療法の実践に必要な知識（2）	喀痰吸引	喀痰吸引を実践できる。	
13	事例検討（1）	事例提示、評価計画の立案	老年期作業療法の対象者に対して、評価計画を立案できる。	

14	事例検討 (2)	評価の解釈、目標設定	評価結果を解釈して目標を設定できる。
15	事例検討 (3)	介入計画の立案 事例検討のまとめ	老年期作業療法の対象者に対して評価・介入過程を模擬的に実践できる。
評価方法		筆記試験 (100%)	
課題に対するフィードバック		1 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 2 オフィスアワーの時間帯に質問を受け、回答する。	
教科図書		特に指定しない (資料を配付する)。	
参考図書		山田孝・編『クリニカル作業療法シリーズ高齢期障害領域の作業療法第2版』中央法規出版、2016年 矢谷令子・監『標準作業療法学専門分野高齢期作業療法学第3版』医学書院、2015年 鎌倉矩子、他・著『老年期の作業療法改訂第3版』三輪書店、2018年 日本作業療法士協会・監『作業療法学全書改訂第3版第7巻作業治療学4 老年期』協同医書出版社、2008年	
学習の準備		1 事前学習として、老年学、作業療法評価学の老年期障害に関係する部分を理解しておくこと(90分)。 2 事後学習として、資料を見直し、要点を整理しておくこと、また、事例の評価計画の立案と目標設定を検討し発表資料を作成すること(90分)。	
オフィスアワー		木曜日 16:20~16:50 その他担当教員から連絡する	
担当教員欄に※印を付した教員の実務経験			